



ヨーバル®UG  
箱粒剤



ウシカ、ぐつたり!!  
イネ、くきくき!!



抵抗性ウンカ類もしっかり抑制!  
米づくりに安心をもたらす、信頼の3成分配合。

- 抵抗性ウンカ類にも有効なPX POWER® (ピメトロジン)
- 初期害虫・チョウ目害虫に有効なヨーバル® (テトラニプロール)
- いもち病に有効なルーチン® (インシアニル)

慣行播種  
箱当り  
50g

高密度播種  
箱当り: 50~100g  
(1kg/10aまで)



®ヨーバル、®ルーチンはバイエルグループの登録商標  
PX POWER®はシンジェンタ社の登録商標



バイエル クロップサイエンス株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
<https://cropscience.bayer.jp/>  
お客様相談室 ☎0120-575-078  
9:00~12:00,13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



## ヨーバル® UG箱粒剤の特長

### ● 水稲の主要病害虫に優れた効果

- いもち病防除の定番「ルーチン®」(有効成分:インチアニル)、新規ジアミド系殺虫剤「ヨーバル®」(有効成分:テトラニプロール)、ウンカ類へ効果の高いピメトロジンの3有効成分からなる水稲育苗箱専用剤です。
- 水稲の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、チョウ目害虫のニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。

### ● 優れた浸透移行性と長い残効

インチアニル、テトラニプロール、ピメトロジンはいずれも浸透移行性に優れ、長い残効性を有しています。

### ● は種時から移植当日まで使用可能

は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

### ● 高密度播種へ高い適用性

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)



## 適用病害虫および使用方法

(2021年10月現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ イナゴ類、ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前) ~移植当日	本 剤: 1回 テトラニプロール: 1回 ピメトロジン: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) イソチアニル: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	育苗箱の上から 均一に散布する
	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)				
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ~移植当日		

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

## 注意事項

- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本剤処理後に急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意して下さい。
- 本剤処理後の極端な低温または高温条件下で薬害を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめて下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせて下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

◎播種同時施薬機や田植同時施薬機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

## 目次

特長	2
適用病害虫および使用方法	3
有効成分の名称および物理的・化学的性状等 / 安全性(製剤)	4
インチアニルの作用機構と作用特性	5
テトラニプロールの作用機構と作用特性	6
ピメトロジンの作用機構と作用特性	7
病害虫への効果	8
新農薬実用化試験 概評(抜粋)	11
使用して問題のなかった水稲品種・育苗用培土の事例	14
播種時処理について / ウンカ類の防除	15



## 有効成分の名称および物理的・化学的性状等

- 商品名: ヨーバル®UG箱粒剤
- 農林水産省登録: 第24476号
- 試験名: BCM-192粒剤
- 種類名: テトラニプロール・ピメトロジン・イソチアニル粒剤
- 性状: 類白色細粒
- 有効年限: 4年

有効成分名	イソチアニル	テトラニプロール	ピメトロジン
成分量	2.0%	1.5%	3.0%
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-メチルカルバモイル-3-[[5-(トリフルオロメチル)-2H-テトラゾール-2-イル]メチル]ピラゾール-5-カルボキサニリド	(E)-4,5-ジヒドロ-6-メチル-4-(3-ピリジルメチレンアミノ)-1,2,4-トリアジン-3(2H)-オン
構造式			
分子量	298.15	544.88	217.2
融点	193.7~195.1℃	227~230℃	分解により測定不能
水溶解度	0.5mg/ℓ (20℃)	1.2mg/ℓ (20℃)	290mg/ℓ (25℃)
蒸気圧	2.36×10 <sup>-7</sup> Pa (25℃)	4.6×10 <sup>-6</sup> Pa (25℃)	<4×10 <sup>-6</sup> Pa (25℃)
オクタノール/水分分配係数 (log Pow)	2.96 (25℃)	2.6 (25℃)	-0.18 (25℃)
作用機構 (FRAC/IRACコード)	P3	28	9B

## 安全性 (製剤\*)

### 人畜毒性: 普通物\*

- ◇急性経口毒性(ラット♀)… LD<sub>50</sub> > 2,000mg/Kg
- ◇皮膚刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇眼刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇皮膚感作性(モルモット)… 感作性なし(ただしイソチアニル、テトラニプロールに感作性あり)

### 水産動植物への影響

- ◇魚類急性毒性(コイ)… LC<sub>50</sub>(96時間) > 1,000mg/ℓ
- ◇ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ)… EC<sub>50</sub>(48時間) 1.11mg/ℓ
- ◇藻類生長阻害(緑藻)… ErC<sub>50</sub>(0~72時間) > 1,000mg/ℓ

\*「毒物および劇物取締法」に基づく毒物・劇物に該当しないものを指して言う通称

※魚類急性毒性: ヨーバルUG箱粒剤の試験成績

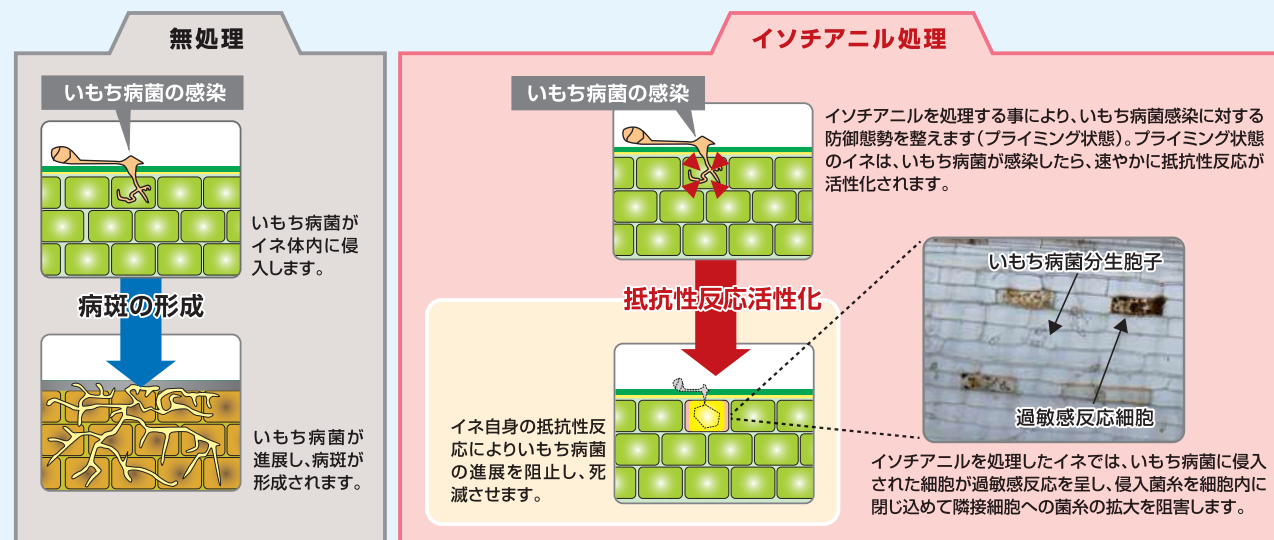
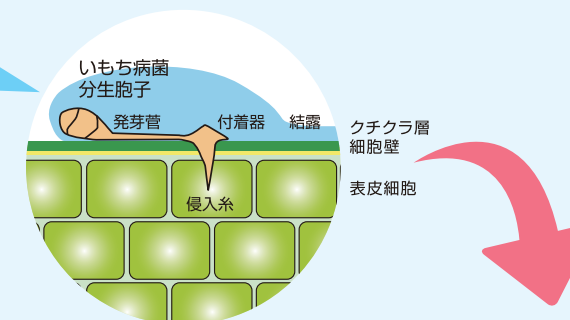
他の項目はテトラニプロール・ピメトロジン・イソチアニル・ベンフルフェン粒剤の試験成績による代替

## イソチアニルの作用機構と作用特性

### 作用機構

- イソチアニルは、イネが本来持っている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。
- イソチアニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導して、病原菌の侵入に備える自己防御態勢をイネに整えます。

いもち病菌の侵入糸がクチクラ層、細胞壁へ貫穿、表皮細胞内へ侵入します。



### 作用特性

#### ●イネ病害に対する阻害効果(育苗箱処理)

- イソチアニルは、いもち病に高い効果を発揮します。いもち病以外にも、白葉枯病や穂枯れ(ごま葉枯病菌)などに対して効果が認められます。

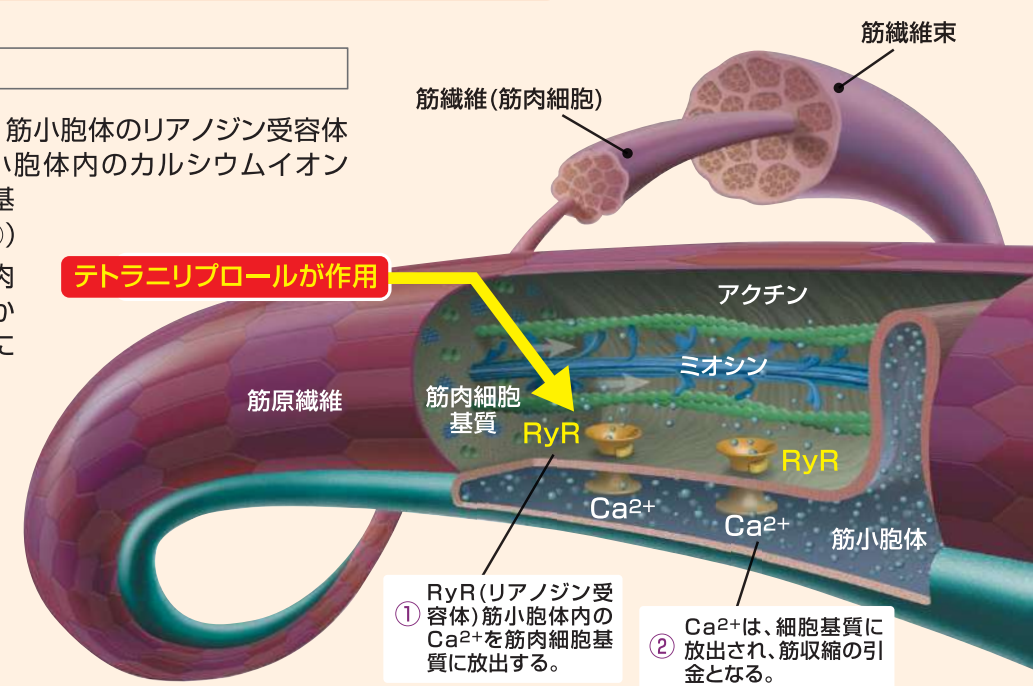
- +++ 効果が高い
- ++ 効果あり
- + 低い効果あり
- 効果不足

作物	病害	効果
イネ	子囊菌類	いもち病 +++
		穂枯れ(ごま葉枯病菌) + ~ ++
		ごま葉枯病 —
担子菌類	紋枯病	—
	接合菌類	苗立枯病( <i>Rhizopus</i> sp.) —
細菌類	白葉枯病	++ ~ +++
	もみ枯細菌病	+
	内穎褐変病	+
	苗立枯細菌病	+
	褐条病	—

## テトラニプロールの作用機構と作用特性

### 作用機構

- テトラニプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体 (RyR) に作用し、筋小胞体内のカルシウムイオン (Ca<sup>2+</sup>) を筋肉細胞基質に放出させます。(①)
- その結果、昆虫は筋肉の収縮を起こし、速やかに活動が停止して死に至ります。(②)



テトラニプロールが作用

① RyR(リアノジン受容体)筋小胞体内のCa<sup>2+</sup>を筋肉細胞基質に放出する。

② Ca<sup>2+</sup>は、細胞基質に放出され、筋収縮の引き金となる。

### 作用特性

#### ●テトラニプロールの虫体萎縮症状

■テトラニプロール処理により、摂食活動の停止と虫体萎縮症状が見られました。



2019年  
バイエルクロップサイエンス(株)社内試験

- 品 種: ヒヨクモチ
- 対象害虫: コブノメイガ
- 処理方法: 小さなポットで栽培した苗(15~17cm)を1ppmに調製したテトラニプロール溶液(Toriton X-100を0.1%になるように加用)に20秒浸漬し、風乾。
- 接種方法: 風乾後、5~7cmに切った葉片10枚をシャーレに入れ、約10頭のコブノメイガ幼虫(5~7mm)を接種。接種3日後に調査。

#### ●イネ主要害虫への効果

■テトラニプロールは水稻害虫に対し幅広い殺虫スペクトラムを有します。

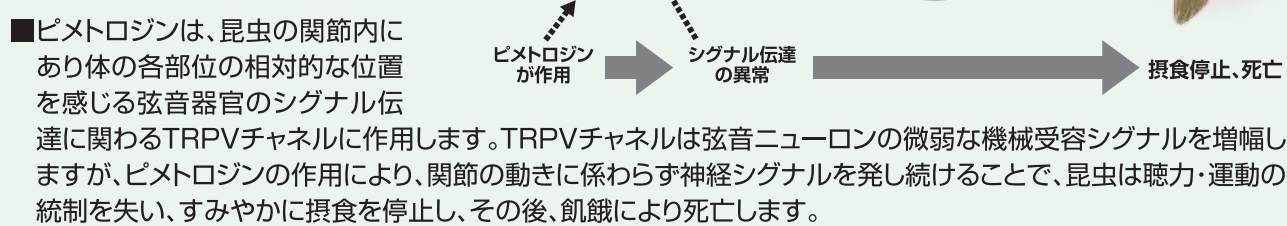
害虫名		テトラニプロールの殺虫スペクトラム (水稻(育苗箱))
チョウ目	ニカメイチュウ	○
	コブノメイガ	○
	フタオビコヤガ	○
	イネツトムシ	○
コウチュウ目	イネドロオイムシ	○
	イネミズゾウムシ	○
カメムシ目	ツマグロヨコバイ	○
ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○
バッタ目	コバネイナゴ	○

○: 殺虫活性あり  
□: 特に活性の高い害虫

## ピメトロジンの作用機構と作用特性

### 作用機構

- ピメトロジンは国内の水稻分野で使用できる作用機構として唯一、殺虫剤分類9Bに属し、従来の薬剤が効きにくくなったウンカ類にも高い効果を有します。



出典: IRAC (Insecticide Resistance Action Committee) 資料

### 作用特性

#### ●ピメトロジンの吸汁によるウンカの殺虫過程

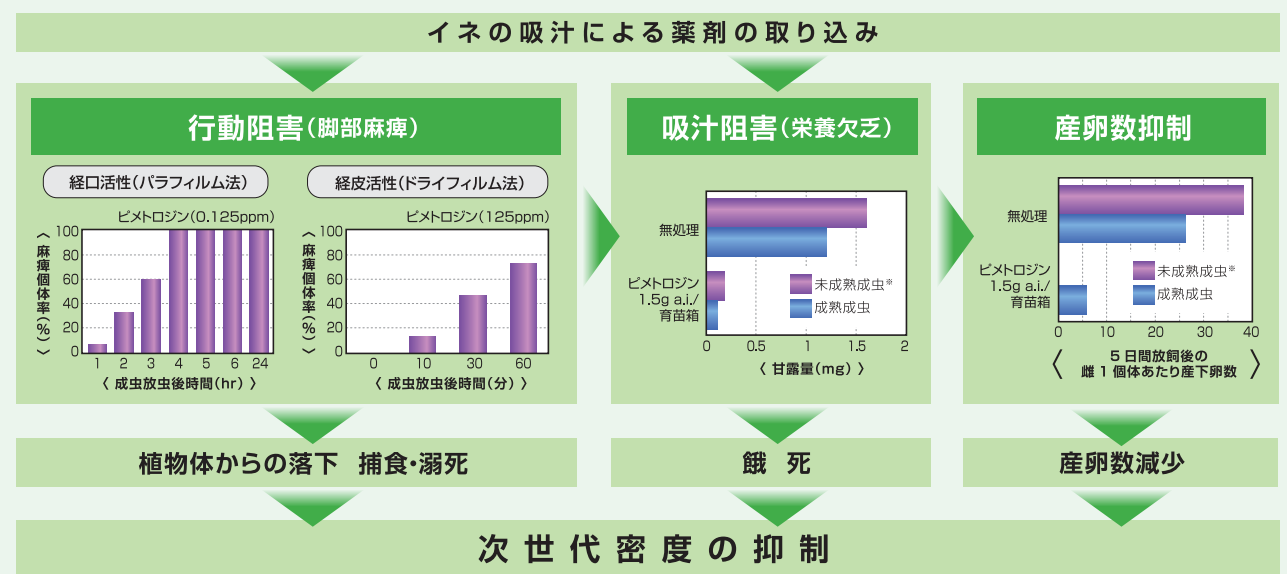
■イネの吸汁によりピメトロジンを取り込んだウンカでは、神経伝達異常により、水面への落下や、吸汁阻害による餓死が引き起こされます。



供試害虫: トビイロウンカ 出典: シンジェンタジャパン(株)提供資料

#### ●ウンカ類に対する作用と活性

■ピメトロジンのウンカに対する効果は、行動阻害、吸汁阻害、産卵数抑制により得られます。



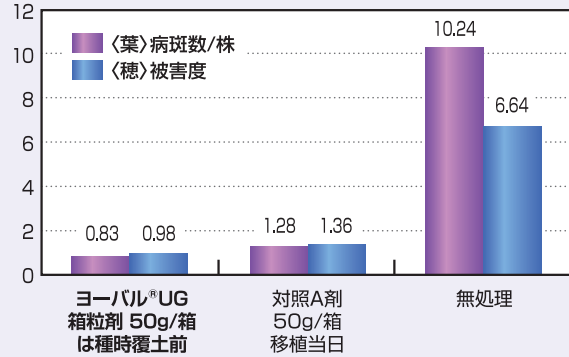
1998年 シンジェンタジャパン(株)社内試験  
供試害虫: トビイロウンカ ※放飼虫生育ステージ: 未成熟成虫: 羽化0~3日後、成熟成虫: 羽化7~10日後  
吸汁阻害試験方法: 移植当日育苗箱施用し、移植7日後にトビイロウンカ成虫を放虫した。1日間放虫後、そのトビイロウンカの雌雄1対を新しい無処理のイネ体を入れた試験管に放虫し、2日後に取り出し、試験管内の甘露量(排泄物)を測定した。  
産卵阻害試験方法: 移植当日育苗箱施用し、移植7日後にトビイロウンカ成虫を放虫した。5日間放虫後トビイロウンカを取り除き、葉鞘内の産下卵数を数えた。



# 病害虫への効果

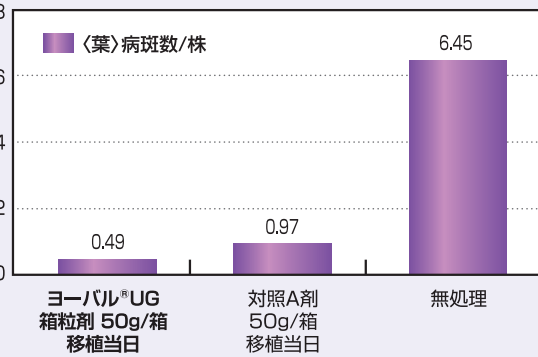
## ■いもち病への効果

2019年 フィールドバイオリサーチ(株) 福岡事務所



●品種: さがびより ●発生状況: 中発生(葉いもち)、少発生(穂いもち)  
 ●は種: 6月3日 ●移植: 6月25日 ●出穂: 9月6日  
 ●調査: 葉いもち 9月2日(上位3葉)、穂いもち 10月2日

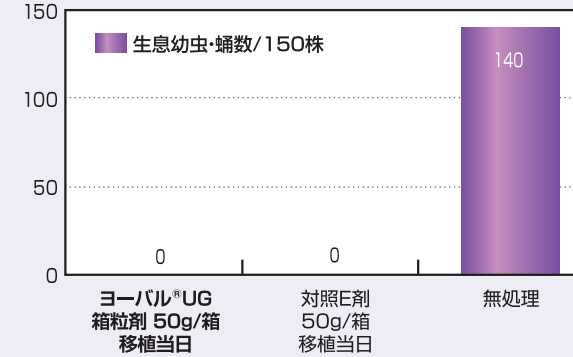
2019年 宮城県古川農業試験場



●品種: ひとめぼれ ●発生状況: 少発生(葉いもち 接種)  
 ●は種: 4月19日 ●移植: 5月16日 ●接種: 6月21日、7月5日  
 ●出穂: 8月5日 ●調査: 葉いもち 8月1日

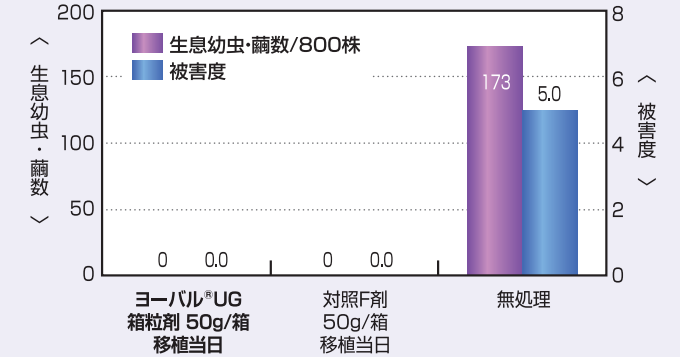
## ■イネドロオウムシへの効果

2019年 (公社)石川県植物防疫協会



●品種: コシヒカリ ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 4月5日 ●移植: 5月8日  
 ●調査: 6月12日(移植35日後)

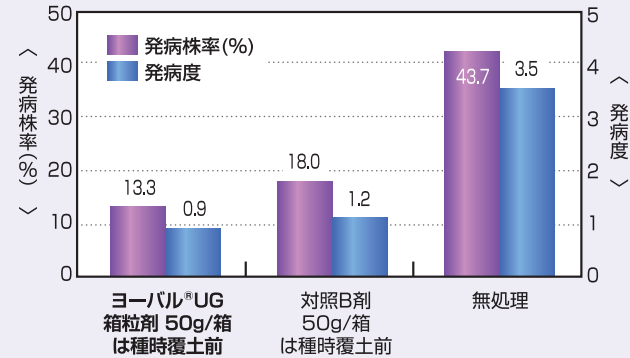
2019年 (一社)日本植物防疫協会 山梨試験場



●品種: コシヒカリ ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 5月1日 ●移植: 5月27日  
 ●調査: 7月1日(移植35日後 生育幼虫・蛹数)、7月9日(移植43日後 食害程度)

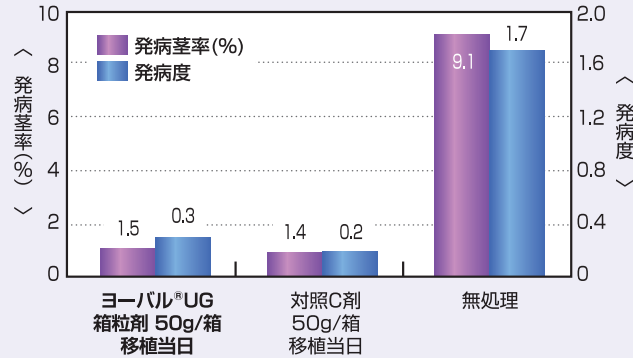
## ■白葉枯病への効果

2019年 石川県農林総合研究センター農業試験場



●品種: コシヒカリ ●発生状況: 中発生(接種)  
 ●は種: 4月15日 ●移植: 5月9日 ●接種: 5月16日  
 ●出穂: 7月30日頃 ●調査: 8月27日(発病度は上位3葉調査)

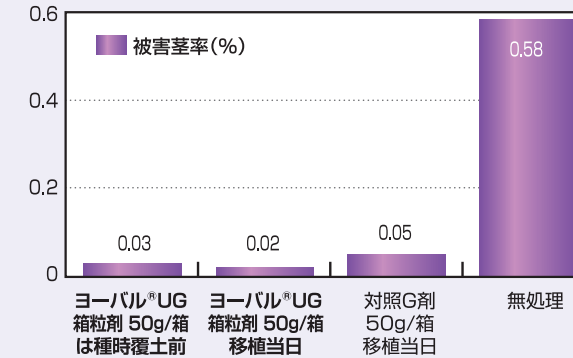
2019年 (一社)日本植物防疫協会 高知試験場



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 少発生(接種)  
 ●は種: 5月10日 ●移植: 6月5日 ●接種: 6月5日、8月14日  
 ●出穂: 8月26日 ●調査: 9月18日(止葉と次葉を調査)

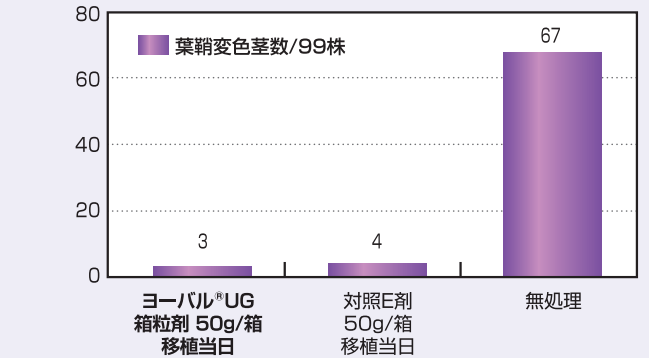
## ■ニカメイチュウへの効果

2019年 愛媛県農林水産研究所



●品種: ひめの凜 ●発生状況: 少発生(放虫)  
 ●は種: 5月10日 ●移植: 6月6日  
 ●調査: 8月9日(移植64日後)

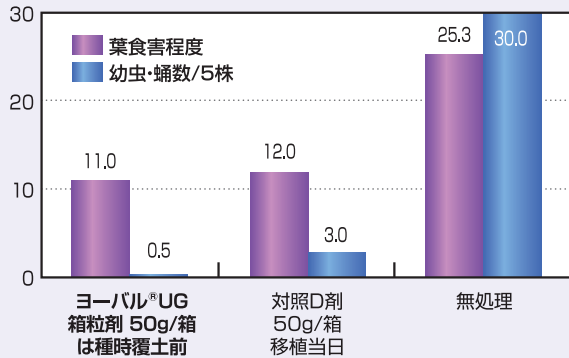
2019年 (公社)石川県植物防疫協会



●品種: ゆめみづほ ●発生状況: 中発生(放虫)  
 ●は種: 4月5日 ●移植: 5月6日  
 ●調査: 7月8日(移植63日後)

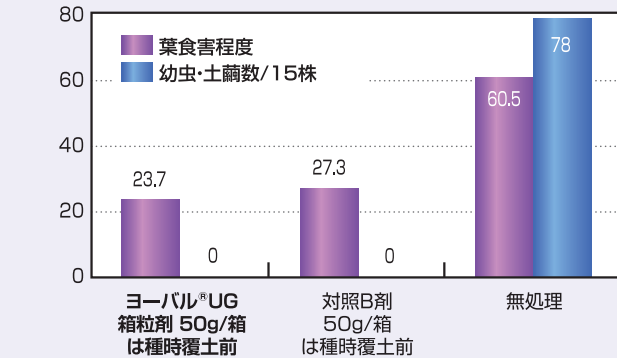
## ■イネミズゾウムシへの効果

2019年 山形県農業総合研究センター



●品種: はえぬき ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 4月23日 ●移植: 5月15日  
 ●調査: 6月24日(移植40日後 食害程度)、7月3日(移植49日後 幼虫・蛹数)

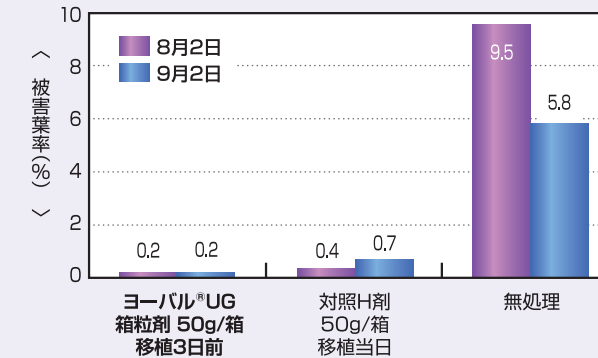
2019年 石川県農林総合研究センター農業試験場



●品種: コシヒカリ ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 4月15日 ●移植: 5月9日  
 ●調査: 5月28日(移植19日後 食害程度)、6月24日(移植46日後 幼虫・土菌数)

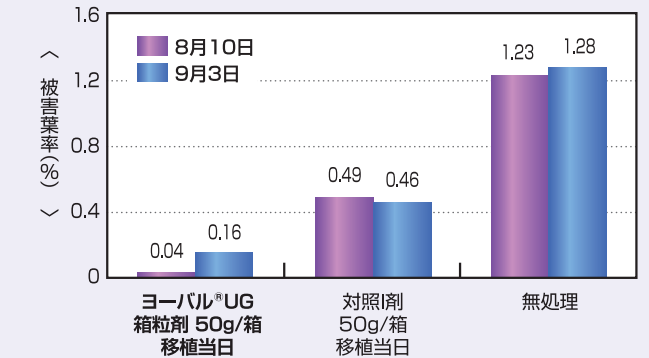
## ■コブノメイガへの効果

2019年 鹿児島県農業開発総合センター



●品種: あきはなみ ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 5月15日 ●移植: 6月6日  
 ●調査: 8月2日(移植57日後 全葉調査)、9月2日(移植88日後 上位3葉調査)

2019年 (一社)日本植物防疫協会 岡山試験地

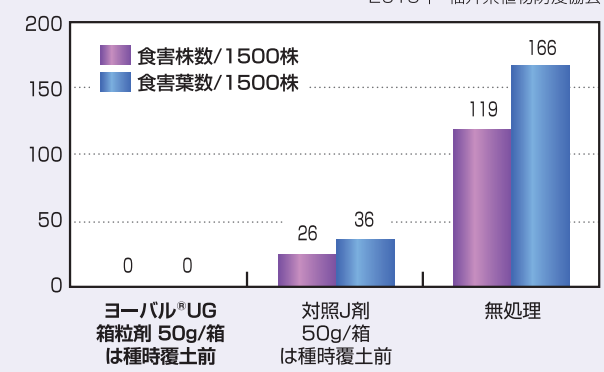


●品種: にこまる ●発生状況: 少発生(第1世代、第2世代)  
 ●は種: 5月29日 ●移植: 6月20日  
 ●調査: 8月10日(移植51日後 第1世代 上位4葉調査)、9月3日(移植75日後 第2世代 上位3葉調査)

## 病害虫への効果

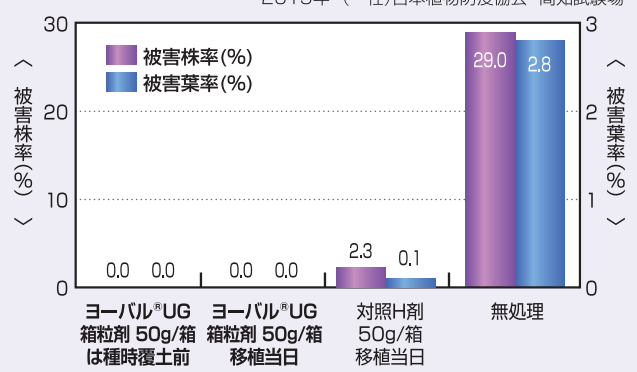
### ■フタオビコヤガへの効果

2019年 福井県植物防疫協会



●品種: コシヒカリ ●発生状況: 少発生  
●は種: 4月17日 ●移植: 5月12日  
●調査: 7月5日(移植54日後)

2019年 (一社)日本植物防疫協会 高知試験場

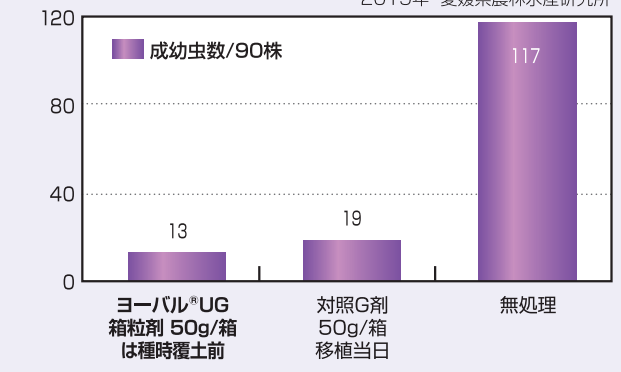


●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 少発生(放虫)  
●は種: 5月17日 ●移植: 6月7日  
●調査: 8月5日(移植59日後)

## 病害虫への効果

### ■ツマグロヨコバイへの効果

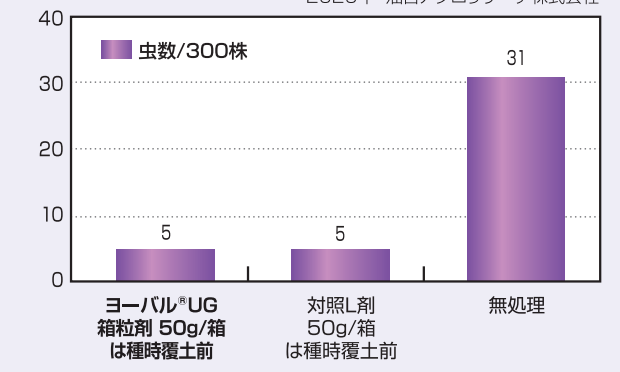
2019年 愛媛県農林水産研究所



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 極少→少発生  
●は種: 5月31日 ●移植: 6月19日  
●調査: 8月19日(移植61日後) 払落し法による調査

### ■イナゴ類(コバネイナゴ)への効果

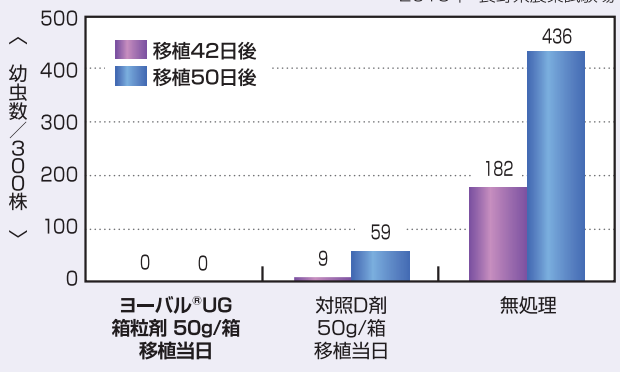
2020年 油日アグリソーチ株式会社



●品種: キヌヒカリ ●発生状況: 少発生(放虫)  
●は種: 4月20日 ●移植: 5月11日  
●調査: 6月29日(移植49日後)

### ■イネツトムシへの効果

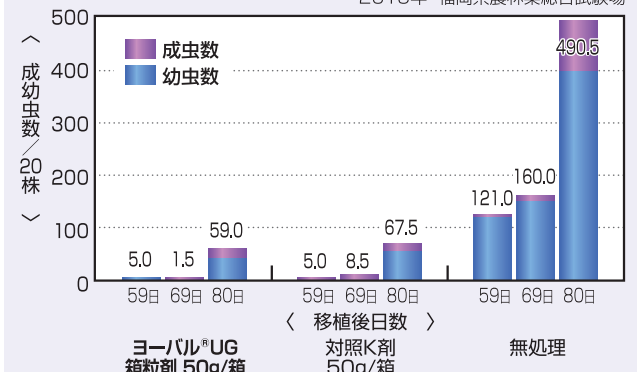
2019年 長野県農業試験場



●品種: あきたこまち ●発生状況: 中発生  
●は種: 6月7日 ●移植: 6月24日  
●調査: 8月5日(移植42日後)、8月13日(移植50日後)

### ■トビロウカへの効果

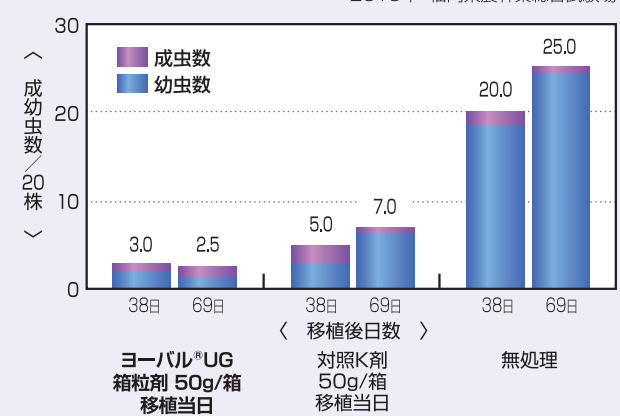
2019年 福岡県農林業総合試験場



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 多発生 ●は種: 5月27日 ●移植: 6月21日  
●出穂: 8月26日 ●調査: 8月19日(移植59日後)、8月29日(移植69日後)、9月9日(移植80日後) 払落し法による調査

### ■ヒメトビウンカへの効果

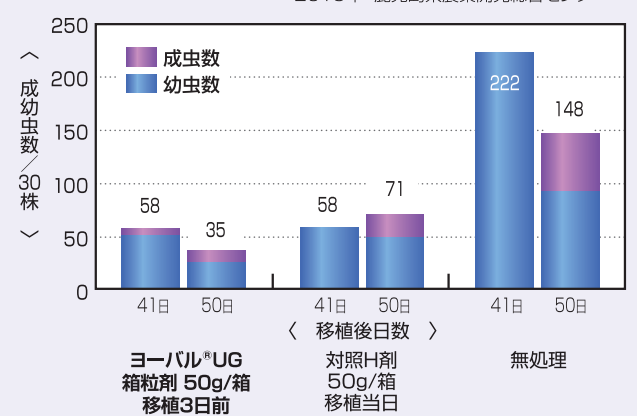
2019年 福岡県農林業総合試験場



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 少発生 ●は種: 5月27日 ●移植: 6月21日  
●調査: 7月29日(移植38日後)、8月29日(移植69日後) 払落し法による調査

### ■セジロウカへの効果

2019年 鹿児島県農業開発総合センター



●品種: あきほなみ ●発生状況: 中発生 ●は種: 5月15日 ●移植: 6月6日  
●調査: 7月17日(移植41日後)、7月26日(移植50日後) 払落し法による調査

## 新農薬実用化試験 概評(抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/19 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:A 穂:?	葉:A 穂:?	葉:A 穂:?	-
2019	稲(ハナエチゼン)	いもち病	福井植	本田	葉:中(接種) 穂:少	は種:4/7 移植:4/28 出穂:7/17	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:A 穂:A	葉:A 穂:A	葉:A 穂:B	-
2019	稲(関東90号)	いもち病	岡山	本田	葉:中(接種) 穂:多	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:A	葉:A 穂:B	葉:A 穂:B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	いもち病	日植防高知	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:5/17 移植:6/7 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:?	葉:B 穂:?	葉:B 穂:?	-
2019	稲(さかびより)	いもち病	フィールドバイオリサーチ(佐賀)	本田	葉:中 穂:少	は種:6/3 移植:6/25 出穂:9/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:C	葉:B 穂:B	葉:B 穂:B	-
2019	稲(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:?	葉:A 穂:?	葉:A 穂:?	±
2019	稲(キヌヒカリ)	いもち病	兵庫	本田	葉:中(接種) 穂:中	は種:5/10 移植:6/6 出穂:8/8	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照M剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:C	葉:A 穂:B	葉:A 穂:B	±
2019	稲(関東90号)	いもち病	岡山	本田	葉:中(接種) 穂:多	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:B	葉:A 穂:B	葉:A 穂:B	+*
2019	稲(ヒノヒカリ)	いもち病	日植防高知	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:5/17 移植:6/7 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:?	葉:B 穂:?	葉:B 穂:?	-
2019	稲(さかびより)	いもち病	フィールドバイオリサーチ(佐賀)	本田	葉:中 穂:少	は種:6/3 移植:6/25 出穂:9/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:A	葉:A 穂:B	葉:A 穂:B	-

※ 移植苗の根張り不良

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ヒノヒカリ)	もみ枯細菌病	京都府大病	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照L剤 50g/箱 (移植前日)	B	C	C	-
2019	稲(コシヒカリ)	もみ枯細菌病	日植防茨城	本田	少(接種)	は種:4/18 移植:5/9 出穂:8/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照N剤 30g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-
2019	稲(日本晴)	もみ枯細菌病	山口	本田	多(接種)	は種:5/14 移植:6/6 出穂:8/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照O剤 50g/箱 (移植当日)	D	D	D	-

### 新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	C	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照L剤 50g/箱 (移植前日)	B	B	B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/12 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-
2019	稲(コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照B剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照L剤 50g/箱 (移植前日)	B	B	B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/5 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ヒノヒカリ)	内穎褐変病	奈良植	本田	少	は種:5/6 移植:6/15 出穂:8/25	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照P剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲(きぬむすめ)	内穎褐変病	兵庫植	本田	中	は種:6/18 移植:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照Q剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(にこまる)	内穎褐変病	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/22 出穂:9/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	内穎褐変病	鳥取	本田	中	は種:4/26 移植:5/20 出穂:8/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照M剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	D	D	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ヒノヒカリ)	穂枯れ(こま葉枯病菌)	日植防宮崎	本田	少(接種)	は種:6/9 移植:6/28 出穂:8/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照R剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	-
2020	稲(キヌヒカリ)	穂枯れ(こま葉枯病菌)	兵庫	本田	少	は種:5/11 移植:6/4 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照M剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C	-
2020	稲(ヒノヒカリ)	穂枯れ(こま葉枯病菌)	日植防宮崎	本田	中(接種)	は種:6/5 移植:6/22 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照R剤 50g/箱 (移植3日前)	B	C	C	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(あきたこまち)	イネミズソウムシ	秋田	本田	多(放虫)	は種:4/10 移植:5/10	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照S剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(はえぬき)	イネミズソウムシ	山形	本田	中	は種:4/23 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	J-pec(福島)	本田	中	は種:4/15 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照B剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(コシヒカリ)	イネドロオウムシ	石川植	本田	中	は種:4/5 移植:5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防茨城	本田	少	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防山梨	本田	中	は種:5/1 移植:5/27	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネドロオウムシ	J-pec(福島)	本田	少	は種:4/15 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防茨城	本田	少	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ハナエチゼン)	イネツトムシ	福井植	本田	少	は種:4/7 移植:4/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(あさひの夢)	イネツトムシ	日植防茨城	本田	中	は種:5/21 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(あきたこまち)	イネツトムシ	長野	本田	中	は種:6/7 移植:6/24	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	±
2019	稲(ヒノヒカリ)	イネツトムシ	愛媛	本田	少	は種:6/7 移植:6/25	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(にこまる)	コブノメイガ	日植防岡山	本田	第1:少 第2:少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	第1:A 第2:A	第1:A 第2:B	第1:A 第2:B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	山口	本田	第1:甚 第2:甚	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	第1:D 第2:D	第1:B 第2:D	第1:B 第2:D	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲(あさひなみ)	コブノメイガ	鹿児島	本田	中	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	山口	本田	第1:甚 第2:甚	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	第1:C 第2:C	第1:A 第2:B	第1:A 第2:B	±
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	愛媛	本田	少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	コブノメイガ	鹿児島植	本田	少	は種:5/24 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植前日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	本田	中(放虫)	は種:4/5 移植:5/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ひめの凜)	ニカメイチュウ	愛媛	本田	少(放虫)	は種:5/10 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	ニカメイチュウ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-
2019	稲(コシヒカリ)	ニカメイチュウ	日植防茨城	本田	少(放虫)	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ひめの凜)	ニカメイチュウ	愛媛	本田	少(放虫)	は種:5/10 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	ニカメイチュウ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	本田	少	は種:4/16 移植:5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照U剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(あさひの夢)	フタオビコヤガ	日植防茨城	本田	少	は種:5/21 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(キヌヒカリ)	フタオビコヤガ	油日(滋賀)	本田	少	は種:4/26 移植:5/21	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照S剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	フタオビコヤガ	日植防高知	本田	少(放虫)	は種:5/17 移植:6/7	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(はえぬき)	フタオビコヤガ	山形	本田	少(放虫)	は種:4/23 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	B	-
2019	稲(コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	本田	少	は種:4/17 移植:5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照J剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	フタオビコヤガ	日植防高知	本田	少(放虫)	は種:5/17 移植:6/7	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-



## 新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			被害	
							処理方法	回数		対照	対無処理	判定		
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	福岡	本田	多	は種:5/27 移植:6/21	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	C	C	-
2019	稲 (にこまる)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	福岡	本田	少	は種:5/27 移植:6/21	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	福岡	本田	少	は種:5/27 移植:6/21	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-
2019	稲 (あきほなみ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	鹿児島	本田	中	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	愛媛	本田	少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	愛媛	本田	少→中	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			被害	
							処理方法	回数		対照	対無処理	判定		
2019	稲 (にこまる)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-
2019	稲 (あきほなみ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	鹿児島	本田	多	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	愛媛	本田	極少→少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			被害	
							処理方法	回数		対照	対無処理	判定		
2019	稲 (まっしぐら)	イナゴ類 (コバネイナゴ)	青森	本田	多	は種:4/12 移植:5/16	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	-
2019	稲 (にこまる)	イナゴ類 (コバネイナゴ)	日植防岡山	本田	中	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2020	稲 (コシヒカリ)	イナゴ類 (コバネイナゴ)	フィールドパイオリアサーチ(茨城)	本田	少	は種:4/17 移植:5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照L剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2020	稲 (キヌヒカリ)	イナゴ類 (コバネイナゴ)	油日(滋賀)	本田	少(放虫)	は種:4/20 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照L剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	B	B	±
2020	稲 (きぬむすめ)	イナゴ類 (コバネイナゴ)	鳥取	本田	少→中	は種:5/7 移植:5/29	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	B	C	C	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			被害	
							処理方法	回数		対照	対無処理	判定		
2020	稲 (あきたこまち)	イネヒメハモグリバエ	秋田	本田	中	は種:4/10 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2020	稲 (ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照W剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2020	稲 (あきたこまち)	イネヒメハモグリバエ	秋田	本田	中	は種:4/10 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	±
2020	稲 (ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照W剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-

### ●使用して問題のなかった水稻品種、育苗用培土の事例 (慣行播種/は種時覆土前処理での確認事例)

水稻品種	キヌヒカリ・黄金錦・コシヒカリ・さがびより・はえぬき・ひとめぼれ・ヒノヒカリ・ひめの凜
育苗用培土	中セキ田植機育苗専用培土・中セキ中寒地培土・イセキラブリー培土・宇部培土2号・輝培土・極きわみつけ・くみあい宇部粒状培土2号・クリーン培土・合成培土L・ゴールデンゼオライト培土・苗みどり・ニュースーパー培土・ホーネン培土・ヤンマーすこやか培土・粒状軽量培土

## 播種時処理について

ヨーバル®UG箱粒剤を播種時施薬機で処理する事によって、育苗箱処理の手間を省力し、効率的な作業が行えます。

### 播種時施薬機の一例

パラット (株) 美善  
薬丸ヒット (株) ホクエツ

### 播種時施薬機の設置例

播種時施薬機は、灌水装置の後に設置して下さい。  
(施薬機は、①または②の場所に設置して下さい。)

●播種作業時に使用する場合、播種時施薬機の散布量調整をお願いします。  
●傾きがあると正確な散布が出来なく、散布ムラの原因になりますのでご注意ください。  
●播種時施薬機の取扱説明書の注意事項をご確認ください。

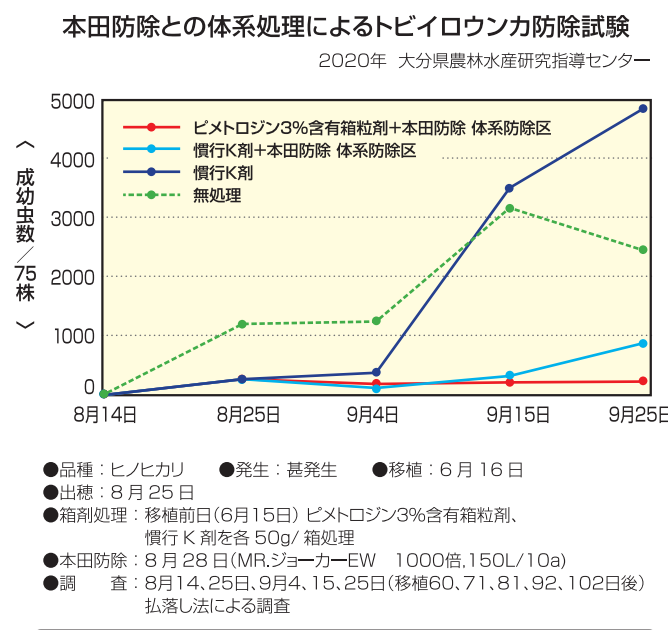
播種同時施薬装置  
みのる産業 (株)

育苗箱施薬ホッパー  
(株) スズテック

## ウンカ類の防除

### ●トビイロウンカ

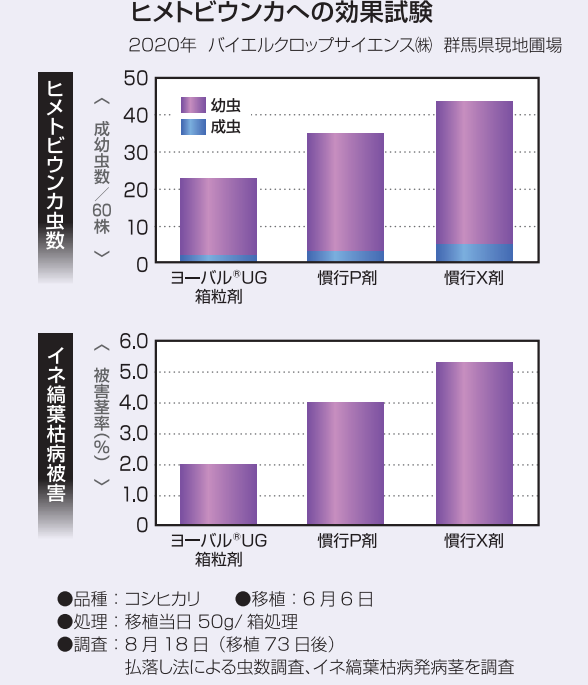
トビイロウンカは収穫期まで世代を繰り返しながら密度を増加させるため、水稻箱処理剤と本田防除剤との体系防除が重要です。ピメトロジンは既存薬剤に対し抵抗性の発達したウンカ類にも有効ですので、ヨーバル®UG箱粒剤の処理により、本田移植後長期にわたり防除することができます。



成熟期(10月3日頃)において、無処理区および慣行K剤単独処理区では坪枯れが発生したが、ピメトロジン3%含有箱粒剤および慣行K剤の体系防除区では坪枯れの発生はなかった。

### ●ヒメトビウンカ

ヒメトビウンカの媒介する縞葉枯病は、保毒虫が稲を吸汁することにより感染、伝播を繰り返すため、吸汁阻害効果と長期残効を有する薬剤による予防的な防除が重要です。ピメトロジンは優れた吸汁阻害効果に加え、次世代密度抑制効果も有するため、ヨーバル®UG箱粒剤の処理により効果的に防除できます。



ヨーバル®UG箱粒剤区は、慣行P剤、慣行U剤同等のヒメトビウンカおよび縞葉枯病に対する防除効果を示した。